

日本認知症予防学会に期待されること

浦上 克哉

鳥取大学 医学部 認知症予防学講座

2023年6月14日に認知症基本法が成立しました。6月14日は、日本認知症予防学会が記念日登録をした認知症予防の日です。認知症予防に関する施策がもっと施行されるようにアプローチすることが求められています。治療では抗アミロイドβ抗体薬の処方が可能となり新たなステージに入りました。抗アミロイドβ抗体薬の処方対象となる軽度認知障害（MCI）と軽度のアルツハイマー型認知症（AD）を早期発見することが必要です。MCIの早期発見は容易ではなく病院等の医療機関で待っているだけの対策では不十分です。健診センターや地域での早期発見が必要と考えます。アルツハイマー型認知症は海馬の障害による記憶障害の前に、嗅神経の障害による嗅覚機能低下が起こり、初期変化として重要です。そこで、アルツハイマー型認知症の前段階としての嗅覚機能障害を発見する検査キットであるニンテスト（小林製薬、栄研化学）を開発しました。約5分程度で簡便に施行でき、感度、特異度も高く有用です。鳥取県琴浦町で429名の方に施行したところ、認知機能が低下している方は16.3%だったが、嗅覚機能が低下している方は69.2%と約4倍多く見つけることができました。嗅覚機能検査でMCIやプレクリニカルADを早期発見し抗アミロイドβ抗体薬へつなげる戦略がよろしいと考えます。一方で、抗アミロイドβ抗体薬の投与対象とならない方への対応も重要です。ADの薬物治療としては症状改善薬の有効活用が期待されます。アリドネパッチのような貼付剤は、服薬状況を可視化でき高いアドヒアランスを期待できます。症状改善剤の対象とならないMCIには予防対策が求められます。Lancetの2024年版では修正可能なりスク要因が45%に達したと報告されました。認知症予防に有効なりスク因子に関する啓発を行い、認知症予防教室などを運営していくことが重要と考えます。本学会で認定している認知症予防専門制度の資格保持者の活躍の場が広がっていくことが期待されます。認知症への一次予防、二次予防そして三次予防を切れ目なく継続して行うという理念のもと活動している日本認知症予防学会は高い存在価値があると考えます。